

Title	啓名會第十五回講演集(啓名會發行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3) ,p.150- 150
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300-0151

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

識とを與へるであらう。(松本芳夫)

啓明會第十五回講演集 啓明會發行

面積から言へばわが國最小の縣に屬し、位置から言へば内地の西南北に位し、産業において至つて貧弱にして、政治的にも文化的にも從來甚しく閉鎖されたる琉球は、最近に至つてわが文化史的研究にとつての材料の寶庫として世の注意をひき、次第に南島研究が盛となり、有益なる著書の公刊されるのは誠に喜ばしきことである。本書はわが學界の保護獎勵に多大の貢獻をなしつつある啓明會が、昨年初秋東京において琉球藝術に關する展覽會を催し新たに南島に對する理解と憧憬とに一大刺戟を與へたその時の講演集である。内容は東恩納寛惇氏の琉球史概観、柳田國男氏の南島研究の現状、伊波普猷氏の古琉球の歌謠に就きて、鎌倉芳太郎氏の琉球美術工藝に就きて、伊東忠太氏の琉球藝術の性質、山内盛彬氏の琉球の音楽に就きての六講より成り、その講演者はいづれも南島研究の權威であるから、夫々に興味頗る深し、南島文化の研究に對して有益なる示唆を與ふるものである。(松本芳夫)

雜誌民族(民族發行所)

ひとしく過去の民族生活を知らうとする學問でも、各々その領域があり限界がある。従つて單なる一方面的研究のみでは決して民族生活の全體の真相を知ることができず、こゝに各方面を異に

した研究の協力を必要とするのである。しかるにあまりに分化したる現代の學問は、同一の目的に向へるものすら、その業績であつた。これはやむを得ないとは言ひながら、實に悲しむべきことであつたのである。しかるに今般柳田國夫先生を中心として生れたる「民族」は、名稱そのものとひとしく極めて包括的内容を有し、各方面の専門家の遺著を頼りたる研究論文を始めとして、民族生活に關する資料報告を網羅する一大雜誌であつて、その使命に關しては、「我々の手帳が此雜誌を通じて順次に國內同志の公有たらんとすること、即ちどこまでも現代の連絡にあることを編輯者はのべてゐる。従つて本誌は民族の研究者にとつて最も望ましき要求をみたさるるものである。創刊號には、石金兩時代の過渡期の研究に就いて(濱田耕作氏)、琉球語の母韻統計(伊波普猷氏)、十二支歌に就いて(新城新藏氏)、杖の成長した話(柳田國男氏)、太平洋諸島の巨石文化に就いて(鳥居龍藏氏)の論文其他、第二號には求婚傳説より羽衣、三輪山傳説(金田一京助氏)、二見江村の正月門飾(井上頼壽氏)、楊子を以て泉を下する事(柳田國男氏)、餓鬼阿彌蘇譚(折口信夫氏)、奥羽地方に於けるアイヌ族の大陸交通は既に先秦時代にあるか(喜田貞吉氏)の論文其他がある。かつて柳田先生の主宰したる「郷土研究」がわが學界に異常の刺戟を與へたるとひとしく、本誌もまた多大の貢獻をなすべきことを信じて疑はない。こゝに本誌の誕生を祝するとともに、將來の發展を祈る次第である。(松本芳夫)